



9月の聖句

わたしはあなたがたを ともとよぶ

ヨハネ15章15節

9月のさんびか

ロケットにのって

こどもさんびか改訂版109



友だちとともに

今年の夏休みは例年より短く、コロナ感染防止の観点から規制のある日々でした。コロナも心配ですが、豪雨で被災された方々や各地域の皆様にも、謹んでお見舞い申し上げます。

さて今日から2学期、各ご家庭での様々なご様子を伺える喜びの日々がまた始まります。

先日、年長ならでは恒例行事「宿泊保育」の代わりに「デイキャンプ」を年長児と楽しみました。プール、クッキング、お泊まりこそできないけれど、子ども達のアイデア「どのお祭りもないから夏祭りがしたい!」「お化け屋敷」「スイカ割り」「キャンプファイヤー」「マンションや公園で花火ができないから花火!」等、意見を聞けばなるほど納得です。今の日常を見つめ、園でならできること、友だちとともにしてみたいことを言葉にして伝えあい、作り上げていく子ども達に感動を覚えます。その思いを受け取り、実現するために昼夜を惜しまず考え、協力し合う先生達の姿にも頭が下がります。折しも、当日は夕立…。勿論、雨でも楽しめる準備はしていたものの、打上げ花火、手持ち花火はさせてあげたい…。祈りと願いは届き、全てを楽しむことができました!感謝!!

年中少の皆様も自ら大イベントを作り上げる力が育つ、子ども達の成長をどうぞお楽しみに。

開会礼拝のお話は園長の役目。9月の聖句と月主題は「友」。緊急事態宣言後、大勢が集う礼拝を欠席していますが、時に心が渴望して無性に礼拝に行きたくなります。3月、礼拝堂の外で聴き入った牧師先生のメッセージが長く心に響いていました。それを基に子ども達に話そう。「ユダヤの家庭では友達を3つのものに例えます。1つめ、食べ物に例えられる友達。いつも一緒にいたい、常に必要な人としての友達。2つめは薬に例えられる友達。いつも一緒にいるわけではないが困った時に必要な存在、頼りになる存在としての友達。3つめは病気に例えられる友達。できるだけ遠ざけておかねばならない存在としての友達。この例えを聞いて、あなたは自分の友達をあの人には薬のような友達、と思いつかべ聞いていたのではないのでしょうか?ユダヤでは、祖父母や父母が子ども達に『さて、あなたは一体どれに当てはまると思うか?友達にとって、どんな存在になりたいか?喜ばれる人であるか、喜ばれない人になっていないか、いつも注意深く自分を見極めていきなさい。』と戒めるそうです。」このお話を聴いて、私はとても心が苦しくなった。友達にとって私は?と考えると反省ばかりだから。『病気』になって、初めて気付く大切なこともある。私はよく、神さまごめんなさいと祈る。明日こそと思うけれど、またごめんなさいの日々。そんな私をも神さまは『友』とよんで下さる。皆のことも。神さまの大きな愛に守られ、休んでいる友達の思いも一緒に、今日も皆で力を合わせ、より楽しく過ごそう!と、時折子ども達との問答を交えながら、ありのままを正直に語りました。子ども達は一人一人、真剣な表情で真摯な眼差しを向け、聴き入っていました。その瞳に力強く励まされ、2学期も皆様とともに勇気をもって進みましょう。【園長】